

国指定文化財概要一覧(国宝・重要文化財)

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
渡島	函館市	国	国宝	土偶	平成19年6月8日	市立函館博物館 函館市青柳町17番1号	<ul style="list-style-type: none"> この土偶は、昭和50年(1975)8月24日、函館市尾札部町(旧南茅部町)にある著保内野遺跡から出土したものです。農作業中にクワで深さ30センチメートルほど穴を掘ったところ、偶然発見されました。教育委員会で復元したところ、高さ41.5センチメートルと中が空洞の中空土偶のなかでは国内最大の大きさであることがわかりました。 この土偶は、昭和50年(1975)8月24日、函館市尾札部町(旧南茅部町)にある著保内野遺跡の縄文時代後期(約3,500年前)の集団墓の一角から、土坑に埋納された状態で発見された土偶です。 薄手中空で、頭部の突起・両腕は欠損していますが、その他はほぼ残存し、頭部から脚先まで全身が精緻につくられています。 頸の部分には黒色の、胴部には赤色の顔料が塗られていた痕跡もあります。 この土偶は中空土偶として現存しているもののうち最大、かつ遺存状態が良好で、その出土状態を把握することもでき、当時の信仰や祭祀の実態を明らかにする上で欠かせない資料です。 また、縄文時代後期を代表する優品として、また土偶造形の到達点を示すものとして、極めて貴重です。 	市青柳町駅から徒歩5分 函館駅から約3km	市立函館博物館 0138-23-5480 函館市教育委員会生涯学習部文化財課 0138-21-3472	特別展などで公開しています。日程等については市立函館博物館まで。		http://www.museum.hakodate.hokkaido.jp/
石狩	札幌市	国	重要文化財	太刀銘国俊	昭和8年1月23日	—	<ul style="list-style-type: none"> 国俊は山城国(現在の京都府)粟田口の刀鍛冶国行の子で、孫太郎と称し、弘安(1278~1287)の年号のある国俊作の太刀があることから、日本刀の黄金時代といわれる鎌倉中期の代表的な刀鍛冶といわれています。 この太刀はもともと加賀(現在の金沢県)百万石の城主前田家に伝えられたもので、刀文は華美ではないが鍛えが優れ、古来名刀として名高いものです。 			公開していません。		http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
石狩	札幌市	国	重要文化財	八窓庵(旧舎那院忘筌)	昭和25年8月29日	札幌市中央区中島公園1番地	<ul style="list-style-type: none"> 八窓庵は小堀遠州(遠江守)が、江州(現在の滋賀県)に建てた茶室で、遠州晩年の作といわれています。 この茶室は、窓の配置や室内の構成に遠州の作風が色濃く残っており貴重な建物です。 遠州は豊臣、徳川の両家に仕えた大名で、元和・寛永時代(1615~1643)のすぐれた茶人であり、また建築や庭造りの技術もすぐれ、いまでも京都市内などに有名な作品が残っています。 大正8年(1919)札幌の持田謹也氏が買い受け、北4条西12丁目の同氏邸内に修理のうえ移築しました。このとき、本席に接続して水屋と茶室三分庵を付設し、現在の三室一構となりました。 昭和25年(1950)に長沢氏が譲り受け、保存管理をしておりましたが、昭和46年(1971)に札幌市に寄付され、現在の中島公園内に移設されました。 「忘筌 大有宗甫老人」と記した扁額があることから、旧舎那院忘筌と呼ばれています。 	地下鉄南北線中島公園駅から徒歩5分 市電中島公園通りから徒歩5分	現地警備員詰め所 011-531-0029	概ね4月下旬~11月3日まで 9:00~17:00 年末年始開園無料	札幌市教育委員会1990『札幌の文化財』	http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
石狩	札幌市	国	重要文化財	刀無銘伝来国行	昭和31年6月28日	—	<ul style="list-style-type: none"> 来国行は山城国(現在の京都府)来派の始祖で、国俊の父と伝えられています。 この刀は無銘ですが、その作風と優れた技量からみて、来派の作と鑑定されるもので、国行の作と見られる健全な名刀です。 			公開していません。		http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
石狩	札幌市	国	重要文化財	豊平館	昭和39年5月26日	札幌市中央区中島公園1番地	<ul style="list-style-type: none"> 豊平館は、開拓使が洋風ホテルとして明治13年(1880)に建てたもので、建物本体は米国風様式で、正面玄関の車寄せ・装飾的な手すりをまわしたバルコニーは、ヨーロッパ風様式となっており、開拓使建築の代表的作品です。 建築当時は、現在の中央区北1条西1丁目にあり、開拓使や宮内省の接待所、札幌市の公会堂として使用されていました。 昭和33年(1958)中島公園に移築され、以来、結婚式場として多くの人に利用されています。 全国的にも、文化財施設を結婚式場として利用していることは、非常にめずらしいものです。 	地下鉄南北線中島公園駅から徒歩5分 市電中島公園通りから徒歩5分	豊平館 011-511-0985	9:00~17:00 公開 第2火曜、年末年始休館 ただし、6~10月は第2火曜も開館無料	札幌市教育委員会1980『さっぽろ文庫15』	http://www.hokkaido.or.jp/ohaikan.com/
石狩	札幌市	国	重要文化財	北海道庁旧本庁舎	昭和44年3月12日	札幌市中央区北3条西6丁目1番地	<ul style="list-style-type: none"> 明治21年(1888)に建てられたアメリカ風ネオ・バロック様式の建物で、広く道民から「赤レンガ」の愛称で親しまれています。 材料のレンガ・硬石・木材・石灰などは北海道産のものを使用しており、明治20年代の日本人の設計による大きなレンガ造りの官庁建築として貴重な建物です。 明治42年(1909)の火災で、内部を焼失しましたが、幸いなことに、赤レンガの壁はそれほどの損傷もなく、翌年には復旧工事に取掛かり、同44年(1911)に工事が終了しました。 その後、北海道百年を記念して、昭和43年(1968)に創建当時の姿に復元されました。 現在建物の一部が道立文書館となり、他は会議室として広く利用されています。 	地下鉄南北線さっぽろ駅から徒歩5分 J/R札幌駅から徒歩5分	北海道総務部管財課 011-231-4111	8:45~18:00 年末年始休館 無料	札幌市教育委員会1990『札幌の文化財』	http://kankou.pref.hokkaido.jp/kankoudb/kz-ksnko-link/400-akarenga/akarenga-2.htm
石狩	札幌市	国	重要文化財	北海道大学農学部(旧東北帝国大学農科大学)第二農場	昭和44年8月19日	札幌市中央区北18条西7丁目	<ul style="list-style-type: none"> この建物群は、明治42年(1909)ごろから大正元年(1912)にかけて、それまで放牧地だった現在地に建物をもとの第2農場コーンバーンから移転したり、新築して、酪農経営の実習施設としたものです。 建築年代により、構造・工法に違いがあり、建築史上の価値が高いといえます。 農場の産室・追込所・耕馬舎・種牛舎はクラーク博士が、母校のマサチューセッツ農科大学の家畜房などにならって建てたものです。 この農場は、北海道酪農の模範農場として、指導者の育成や農業技術の向上に役立った面が多く、また、当時の酪農経営の形態を知る上でも貴重な建物です。 	地下鉄南北線北18条駅から徒歩10分	北海道大学事務局経理課 011-706-2055	8:30~17:00 外観のみ公開 土・日曜日休館 無料	札幌市教育委員会1990『札幌の文化財』	http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
石狩	札幌市	国	重要文化財	旧札幌農学校演武場(時計台)	昭和45年6月17日	札幌市中央区北1条西2丁目	<ul style="list-style-type: none"> この建物は、札幌農学校(北海道大学の前身)の演武場として、初代教頭クラーク博士の帰国後、第2代教頭ハイラー博士の構想に基づき開拓使工務局の設計・監督により明治11年(1878)10月に完成したものです。 時計塔部分は明治14年(1881)に付設され、この建物は「大時計」や「時計台」の名で農学校生徒や札幌市民に親しまれてきました。 時計台は簡素で、装飾の少ない米国の中・西部建築の影響をうけた実用建物で、全国でも数少ない開拓使時代の建物として貴重なものです。 建築技法は、19世紀中頃アメリカ西部開拓で考案された木構造手法のバルーンフレーム(風船構造)が採用され、梁を用いず、桁をつなぎ棒でつないだもので建築技術的にも貴重なものです。 建築当時は、今ある場所より約130メートル北側にありましたが、道路整備のため、明治39年(1906)に現在の場所に移されました。 	地下鉄大通駅から徒歩5分 J/R札幌駅から徒歩10分	札幌農学校演武場(時計台) 011-231-0838	8:45~17:10 月曜休館(祝日の場合は翌日) ただし、6~10月は第4火曜のみ休館	札幌市教育委員会1978『さっぽろ文庫6』	http://www.15ocn.ne.jp/~tokeidai/index.html

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
石狩	札幌市	国	重要文化財	北海道大学農学部植物園・博物館	平成1年5月19日	札幌市中央区北3条西8丁目	<ul style="list-style-type: none"> 現在の北海道庁(中央区北3条西6丁目)の西部一帯は、かつて開拓使の牧羊場があり、その一隅に札幌博物館(博物館本館)が明治15年(1882)に建てられました。その後、博物館倉庫が明治17年(1884)に、博物館事務所が明治33年(1890)に、植物園門衛所が明治44年(1911)に建てられました。 この間の明治17年(1884)に、牧羊場は、植物園用地として札幌農学校に移管されて、園路がつくられ植物園として整備されました。 その他の建物として、博物館便所(明治17年(1884)建築)、博物館鳥舎(大正13年(1924)建築)などがあります。 	地下鉄南北線さっぽろ駅から徒歩10分 JR札幌駅から徒歩10分	北海道大学農学部附属植物園 011-221-0066	9:00~16:00(4月29日~9月30日) 9:00~15:30(10月1日~11月3日) 月曜日・冬期間休館 一般400円、小中学生280円	札幌市教育委員会1990『札幌の文化財』	http://www.city.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
石狩	札幌市	国	重要文化財	箱館奉行所文書	平成16年6月8日	北海道立文書館 札幌市中央区北3条西6丁目 赤れんが庁舎内	<ul style="list-style-type: none"> 箱館奉行所文書は、安政元年(1854)に締結された神奈川条約に基づいて設置された箱館奉行所及び出先機関で作成された一群の文書です。 箱館における諸外国との交渉に関わる文書や、蝦夷地(北海道)のモンペツやエトロフなどにおけるアイヌ政策、また北蝦夷(樺太)のシラヌシなどでのアイヌほかの異民族政策にかかわる文書などを含みます。 この箱館奉行所文書は、幕末外交史、アイヌ史上貴重な資料です。 	地下鉄さっぽろ駅から徒歩5分 JR札幌駅から徒歩10分	北海道立文書館 011-204-5073	北海道立文書館(通常は公開していません) 8:45~17:00 休館:日曜・休日・毎月第3木	北海道立文書館所蔵資料目録10『幕府文書、箱館府(県)文書、藩・県文書、開拓使文書(1)』	
石狩	江別市	国	重要文化財	土面(北海道千歳市真々地町ママチ遺跡第三〇号土壌墓出土)	昭和63年6月6日	江別市西野幌685-1 北海道立埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> この土面は、昭和61年に千歳市ママチ遺跡第310号土壌墓から出土した縄文時代晩期終末(今から2300年前ころ)のもので、 土面を詳しく見ると、鼻を中心に全体が膨らみ、曲面で表現されており、とても写実的です。楕円形の目と口は貫通しています。頭と耳には直径5ミリメートル前後の貫通孔があり、紐をとせば顔に装着することも可能です。眉は、まわりより、もり上げて表現されており左右につながっています。鼻は眉よりも一段高く表現されています。 全体として端正な顔立ちで、ほりが深い点、鼻が直線的で高い点、口が受け口ぎみである点など、縄文人の顔の特徴を良く示した土面であるといえます。 また、顔の感じからモデルは大人の男性と思われる。 この土面は、墓の上から発見されたことから、墓標に付けられていたものが落下したと考えられます。 縄文時代の土製仮面としては最北の出土で、北アジアや極北地域の諸民族との関連が考えられる貴重な資料です。 	JR大麻駅から徒歩20分 JRバス・夕鉄バスくりの木公園前バス停から徒歩5分	北海道立埋蔵文化財センター 011-386-3231	9:30~16:30 入館料無料	財団法人北海道埋蔵文化財センター2004『遺跡が語る北海道の歴史』	http://www.domaibun.or.jp/
石狩	江別市	国	重要文化財	北海道江別太遺跡出土品	平成5年6月10日	江別市郷土資料館 江別市緑町西1丁目38番地	<ul style="list-style-type: none"> 指定を受けた出土品は、江別太遺跡出土の木製品類を中心とした縄文時代の道具類です。 江別太遺跡は昭和53年、道央自動車道の千歳川橋梁工事の際に発見された、漁撈活動を中心とする縄文時代の生産遺跡です。川沿いに位置していたため、土器や石器類のほか通常腐ってしまう植物質の遺物が豊富に残されていました。 指定を受けた出土品は、深鉢形土器や皿などの容器、簪や琥珀玉などの装身具、漁撈活動や樹木の伐採、加工などに使用されたとみなされる石器類や木製品など59点で、1世紀頃の人々の生活や河川での漁撈活動を解き明かす貴重な資料です。 特に柄付石ナイフは、当時の道具の使用方法や石器と石の組み合わせ方を知る上で欠かせない資料です。 	JR江別駅から徒歩15分 JRバス江別3丁目バス停から徒歩5分 中央バス青年センターバス停から徒歩2分	江別市郷土資料館 011-385-6466	9:30~17:00(入館は16:30まで) 休館日:月曜日(休日の時は開館)、休日の翌日(休日の翌日(休日の翌日)が連続する場合は、最後の休日の翌日)、年末年始(12月29日~1月3日) 大人200円、小中学生100円	江別市教育委員会1978『江別太遺跡』	http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kvokuik/kyoukoyosisetu/kyouudo/kyouudo.html
石狩	江別市	国	重要文化財	北海道元江別1遺跡土壌墓出土品	平成7年6月15日	江別市緑町西1丁目38番地 江別市郷土資料館	<ul style="list-style-type: none"> 元江別1遺跡は、縄文時代の中頃の遺跡で、昭和54・55年に発掘調査が行われました。 遺跡は南北2カ所の墓群からなり、総計41基の土壌墓(ごうぼ)が発見されました。土壌墓からは、深鉢形土器・壺形土器等の土器類72個、琥珀玉・碧玉(へきぎょく)製の玉類3,669個、石鏃(せきぞく)・石銚・磨製石斧・石ナイフ等の石器類308点等、総計4,000点以上の副葬品が発見されました。 これらの豊富な副葬品は、人々の生活文化の豊かさを示すとともに、当時の日本列島に存在した南の弥生文化に対する、北方の縄文文化の特色を器物、器具の製作技術の面で代表するものであり、当時の人々の習俗や交流の様子を知る上で貴重な資料です。 	JR江別駅から徒歩15分 JRバス江別3丁目バス停から徒歩5分 中央バス青年センターバス停から徒歩2分	江別市郷土資料館 011-385-6466	休館日:月曜日(休日の時は開館)、休日の翌日(休日の翌日)が連続する場合は、最後の休日の翌日)、年末年始(12月29日~1月3日) 大人200円、小中学生100円	江別市教委1981『元江別1遺跡群』	http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kvokuik/kyoukoyosisetu/kyouudo/kyouudo.html
石狩	江別市	国	重要文化財	北海道美々8遺跡出土品	平成17年6月9日	江別市西野幌685-1 北海道立埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> 千歳市と苫小牧市の境を流れる美沢川の低地から出土した木製品を中心とする資料です。 主に樽前b火山灰(1667年)と樽前a火山灰(1739年)にはさまれた近世前半期の泥炭層から出土したもので、それに擦文時代の遺物も加わります。 メカジキの彫刻のある船の櫂(かい)、幾何学模様で飾られた矢筒や山刀などの狩猟用具、漆器を含む食膳具など多彩です。 これらは、擦文時代・アイヌ文化期における文化内容を考える上で貴重なものです。 土器・陶磁器・土製品64点、木製品858点、漆器38点、繊維製品17点、石製品56点、ガラス玉5点、骨角製品7点、金属製品119点の合計1164点が指定されています。 	JR大麻駅から徒歩20分 JRバス・夕鉄バスくりの木公園前バス停から徒歩5分	北海道立埋蔵文化財センター 011-386-3231	9:30~16:30 入館料無料	財団法人北海道埋蔵文化財センター2004『遺跡が語る北海道の歴史』	http://www.domaibun.or.jp/

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
石狩	千歳市	国	重要文化財	動物形土製品	昭和54年6月6日	千歳市 千歳市東雲町2丁目	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和51年(1976)、千歳市と苫小牧市の境界を流れる美沢川左岸の美々4遺跡から発見されました。 ・土製品は、頭・首・胸・指の刻まれた手足を持ち、カメ・ミズドリ・ムササビそしてアザランなどの海獣にも見える不思議な姿をしています。生き物全てを表現したものかもしれませぬ。 ・全長31.5センチメートル、最大幅16.2センチメートル、最大厚9.8センチメートルで、中は空洞で全身に美しい模様を描かれています。 ・約2500年前の縄文時代晩期に作られたものです。 	千歳相互バス青葉公園前バス停から徒歩3分	千歳市埋蔵文化財センター 0123-24-4210 千歳市立図書館 0123-26-2131	千歳市立図書館(複製品のみの公開) 10:00~19:00 定休日第3月曜日 無料	北海道教育委員会1977『美沢川流域の遺跡群Ⅰ』	
石狩	恵庭市	国	重要文化財	北海道カリンバ遺跡基壇出土品	平成18年6月9日	恵庭市南島松157-2	<ul style="list-style-type: none"> ・恵庭市に所在するカリンバ遺跡の縄文時代後期から晩期の墓から発見された副葬品の一括です。 ・赤漆によって塗彩された櫛(くし)・紐(ひも)などの装飾品はデザインも多様で、量も多いです。 ・縄文時代の彩漆技術の高さ、葬法の実態を知る上で貴重なものです。 ・漆製品24点、玉類51点、土器4点(以上第118号墓出土)、漆製品30点、玉類131点(以上第119号墓出土)、漆製品16点、玉類139点、サメ歯製品1点、土器1点(以上第123号墓出土)の合計397点が指定されています。 	JR恵み野駅・島松駅から徒歩40分 恵み野東7丁目バス停から徒歩10分	恵庭市郷土資料館 0123-37-1288	恵庭市郷土資料館 9:30~17:00 月曜日休館 無料	http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/contents/1213143992161/index.html	
渡島	函館市	国	重要文化財	木造大日如来坐像	昭和42年6月15日	函館市住吉町12番23号高野寺	<ul style="list-style-type: none"> ・この大日如来坐像を本尊としている高野山真言宗高野寺は、明治17年(1884)に東川町に仮堂を設け、北南山教王院高野寺として創建されました。7年後の明治24年、青柳町に移り堂宇の新築落成をみました。この時本山の高野山金剛峯寺に請願し、高野山谷上の大日堂本尊であったこの仏像を本尊として下付されました。大正3年(1914)の火災で現在地に移り、昭和9年(1934)3月の函館大火にも遭いましたが、その都度持ち出され難を免れています。 ・高さ約160cmの大きな寄木落押の坐像で両手を胸に智拳印を結び、宝冠を頭上に、胸には瓔珞や条串をかけて結伽趺坐(けつかにふざ)し、光背は舟型で蓮華座に座り、半眼豊頬で慈悲の眼差しをもち、仏師定朝の流れをくんだ優美な作風で、平安時代後期の日本化した品の良い仏像の特徴を伝えている金剛界の大日如来像です。 ・台座、光背などはいずれも消失のため後補のものです。また、大日如来坐像自体の一部が老朽化していたことや装先の欠損や金箔の剥落が顕著であったため、昭和45年に国費と道費を得て、財団法人美術院国宝修理所の手により解体修理が行われ、宝冠もこの時に復旧しました。 	市電谷地頭駅から徒歩3分 函館駅から約2.5km	函館市教育委員会文化財課 0138-21-3456 高野山真言宗高野寺0138-26-4337		「ガイドブック函館の文化財」	
渡島	函館市	国	重要文化財	太刀川家住宅	昭和46年12月28日	函館市弁天町15番15号	<ul style="list-style-type: none"> ・明治34年(1901)、米穀商として活躍する一方、漁業や回漕業なども経営した初代太刀川善吉により建築された2階建土蔵造りの店舗です。外観は煉瓦造りの壁体を漆喰で塗り込めた不燃質和風建築物となっています。 ・間口5間半(約9.9m)、奥行6間(約10.8m)で隣接桁行面には開口部がなく、正面戸袋の両側に防火用の袖壁を構えるなど、度重なる大火に備えた防火対策に腐心した造りである。また、底、軒天井、持送り、腕木はモルタル漆喰の塗込め仕上げがされているほか、2本の鑄鉄柱を配置し、その上に三連のアーチを設けるなど洋風建築の意匠も加味されています。 ・内部の建築用材としてケヤキとカツラが用いられ、1階は5間半、3間半の土間と帳場の店舗、その裏は12畳の仏間と10畳のじょうやと呼ばれる板の間があります。2階へ通じる階段は唐草文様の浮彫がある洋風造り、2階は2間続きの客室で、床の間の壁は石炭を粉砕したものを使用するなどの特徴があります。 ・函館市内の土蔵造り店舗の中でも優れたものであり、内外の意匠などに和洋の手法を用いるなど、明治末期の開港場商家の典型として昭和46年(1971)に国の重要文化財に指定されました。 	市電大町駅から徒歩5分 函館駅から約2.5km	函館市教育委員会文化財課 0138-21-3456		「ガイドブック函館の文化財」	
渡島	函館市	国	重要文化財	旧函館区公会堂	昭和49年5月21日	函館市元町11番13号	<ul style="list-style-type: none"> ・函館港を見おろす坂の坂上に建つこの建物は、明治40年(1907)の大火で消失した町会所に代わる施設として建設され、明治43年に完成しました。建設資金として、豪商相馬哲平が総工費5万8千円のうち5万円を寄付しました。はじめは町会所・商業会議所事務所・ホテルの3つの機能を持つものとして予定されていましたが、ホテルとして営業することはありませんでした。 ・明治44年、当時皇太子であった大正天皇が来函された際には、2階の貴賓室が宿泊所として使用されました。 ・正面にバルコニーを見せる木造2階建の擬洋風建築で左右対称、屋根は椽瓦葺で屋根窓が設置されています。青灰色と黄色で個性的な色彩が施され、両袖妻の唐草模様の装飾や正面玄関等にあるコリント式円柱の柱頭飾りの彫刻も美しいものです。内部も、随所にみられる華やかな意匠の装飾や家具がよく保存されています。 ・建築意匠や技法が高く評価され、昭和49年(1974)に本館が、昭和55年には附属棟が重要文化財に指定されました。昭和55年から3年間、部分解体を含む根本修理が行われ、明治43年創建当時の姿に復元されました。 ・修理前の外壁はピンク色と白色になっていたが、調査によって当時彩色が判明し、復元されたのが現在 	市電末広町駅から徒歩7分 函館駅から約2.5km	旧函館区公会堂0138-22-1001	夏9:00~19:00 冬9:00~17:00 入館料 一般300円、学生~児童150円	「ガイドブック函館の文化財」	
渡島	函館市	国	重要文化財	函館ハリストス正教会復活聖堂	昭和58年6月2日	函館市元町3番13号	<ul style="list-style-type: none"> ・函館山の山麓に建つ函館ハリストス正教会復活聖堂の前身は、安政5年(1858)に来函した初代ロシア領事ゴシケヴィッチが建てた領事館附属聖堂です。 ・明治40年(1907)の大火のため焼失し、大正5年(1916)、煉瓦造りの耐火建築物として再建されたのが現在の聖堂であり、日本初のロシア正教の教会となりました。設計は、信者の河村伊蔵が担当しました。 ・外観は、漆喰塗仕上げの白壁と緑色銅板屋根の美しい聖堂です。平屋建て、鐘楼を持ち、屋根には6つの窓型のクーポラ、そのうえに十字架を載せ、ロシアビザンチン様式を基本としています。基礎には石を、壁体には煉瓦を用いています。 ・建物内部は黄色と赤の唐草文様絨毯が敷き詰められ、正面壁面にはロシアから運んできた極彩色の聖障画が飾られています。 ・この聖堂は、日本ハリストス正教会の発祥の地であり、意匠的にも優れた価値の高いものであるとして昭和58年(1983)に重要文化財として指定されました。これを受けて、昭和61年(1986)から63年の3カ年にわたり総工費2億円をかけて創建当時の姿への復元修理が行われました。 	市電十字街駅から徒歩10分 函館駅から約2km	函館市教育委員会文化財課 0138-21-3456	9:00~17:00	「ガイドブック函館の文化財」	

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
渡島	函館市	国	重要文化財	遺愛学院 旧宣教師館 本館	平成13年6月15日	函館市杉並町 23番11号	<ul style="list-style-type: none"> ・遺愛女子高等学校は当初、明治15年(1882)に函館市元町にミッションスクール「カロライン・ライト・メモリアル・スクール」として開校され、明治18年に遺愛女学校と改称、その後、建物の拡張に伴い明治41年に現在地に移転、同時に本館・宣教師館も建築されました。 ・宣教師館は木造2階建て、外壁が白のオイルペイント塗装に屋根は黒色の便利瓦(昭和4年(1929)頃、鉄板に葺き替え)とコントラストがよく、洗練されたアメリカンスタイルの造りであり、通称「ホワイトハウス」と呼ばれています。純白の屋根窓と東南部の八角形の尖塔が特色としてあげられ、印象的な外観を形成しています。 ・竣工以来、女学校の外国人宣教師等の宿舎として使用され、内装も質素ながら接客を重視した格式あるホールを持つ広間型平面形式の米国の住居風に統一されており、明治期の洋館として貴重な建造物です(付属棟は日本人使用人の住居であったため和風造りです)。 ・現在は学校内での研修棟に活用されているほか、期間を限定して一般公開を行っています。 ・本館は、木造2階建て、基礎煉瓦積みで、外壁がオイルペイント塗のサーモンピンク、窓枠等がホワイトに統一され、正面中央の大きなベディメントを持つ装飾的な玄関ポーチを中心に左右対称型となる瀟洒なアメリカンスタイルの学校建築であり、函館における明治期の洋風建築の中でも優秀なものといえます。 ・また、北海道の学校の中で最も早く蒸気暖房設備を取り入れたのが、この校舎といわれています。かつてはアメリカ人宣教師で建築家としても活躍したウィリアム・ウォーリズ的设计と考えられていましたが、平成13年(2001)に建設当時の仕様書などが偶然発見され、立教大学の初代校長でアメリカ人建築家J.M. ガーディナーの設計であることが判明しました。 ・設関係文書計4点も附指定となっています。 	市電杉並町駅から 徒歩1分 函館駅から約3.5km	学校法人遺愛 学院 0138- 51-0418		「ガイドブック函 館の文化財」	
渡島	函館市	国	重要文化財	北海道志海苔 中世遺構出土 品	平成15年5月29日	市立函館博物 館 函館市青柳 町17番1号 0138-23-5480	<ul style="list-style-type: none"> ・この出土銭は、昭和43年(1968)7月、函館市志海苔町の漁港付近で行われた国道拡幅工事の際に発見された、大甕3個に詰められた大量の埋蔵古銭です。 ・出土した3個の大甕と古銭を合わせた総重量は約1.6トン、出土銭の総数は37万枚を超えるもので、年代の上限の銭は前漢代の四銖半兩(紀元前175年初鑄)、下限の銭は明代初期の洪武通宝(1368年初鑄)であることから、約1、500年にわたる古銭で構成されていることとなります。 ・この大半は渡来銭であり、そのうち北宋銭が最多で全体の約9割近くを占めます。また、和同開珎などの日本製の皇朝銭も8種類15枚含まれています。 ・古銭が入られた3個の大甕のうち、2個は福井県の越前古窯の甕、1個は石川県能登半島の珠洲窯産の甕で、14世紀後半から末頃に埋蔵されたと推定されています。 ・この大量の古銭は、日本海を交易ルートとした特産物取引による収益としての備蓄銭説や神仏に捧げたり、祭祀を行う目的の埋納銭説がありますが、いずれも定説とはなっていません。 ・このような10万枚を超える埋蔵古銭の出土例は全国で7例ほどありますが、その中でも志海苔古銭は最大のもので、中世社会において貨幣流通経済が定着しつつあるという時代背景の中で、日本海運文化の様子を物語る数少ない貴重な歴史資料であり、平成15年(2003)5月、国の重要文化財に指定されました。 	市電青柳町駅から 徒歩5分 函館駅から約3km	市立函館博物 館 0138-23- 5480	夏9:00~16: 30 冬9:00~ 16:00 入館料 大人 100円、学生~ 児童50円	「ガイドブック函 館の文化財」	http://www.m useum.hokkaido. jp/
渡島	函館市	国	重要文化財	大谷派本願寺 函館別院	平成19年12月4日	函館市元町16- 5 大谷派本願 寺函館別院	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷派本願寺函館別院は、明治40年(1907)の函館大火で堂宇を焼失した後に、当時帝室技芸員であった伊藤平左衛門9世の設計により鉄筋コンクリート造で再建された寺院建築です。 ・本堂は大正4年11月に竣工し、正面が33mと大規模で、平面は典型的な真宗本堂形式となっています。 ・鉄筋コンクリート造建築の初期の遺構であり、鉄筋コンクリート造で伝統様式を再現した我が国で最初の寺院建築として高い歴史的価値があります。 ・また、耐火建築として、その後の函館市街地への不燃建築普及の契機となったもので、深い意義が認められます。 	市電十字街駅から 徒歩10分 函館駅から約2.6km	函館市教育委 員会文化財課 0138-21-3456			
渡島	北斗市	国	重要文化財	人形装飾異形 注口土器(北 海道上磯郡上 磯町茂地地出 土)	昭和48年6月6日	東京国立博物 館 03-5777- 8600	<ul style="list-style-type: none"> ・この土器は外反する口縁部、2つに分かれた胴部、環状の胴部、小さな高台付の底部からできています。 ・環状の胴部には注口部が付けられていた痕跡があります。 ・口縁上には、山形の突起が4つあり、その間に小さな突起もあります。突起の下には刺突を入れた小さな貼り付けがあり、縄文に三叉文と沈線文を組み合わせて口縁部文様帯を構成しています。 ・口頸部に相当するところで胴部は2つに分かれますが、この器面の相対する位置に土偶と共通する二組の人間が描かれています。 ・北海道南半部における後期末の縄文土器の文様装飾の特徴である磨消縄文、三叉文、小突起などを施した造形の見事な土器です。 ・北斗市総合文化センターかなでー(北斗市中野通2丁目13-1)、では複製品を展示しています。 	JR上野駅公園口、 または鶯谷駅下車 徒歩10分 東京メトロ 銀座線・ 日比谷線上野駅、 千代田線根津駅下 車 徒歩15分 京成電鉄 京成上 野駅下車 徒歩15 分	東京国立博物 館 03-5777- 8600	東京国立博物 館 9:30~17:00 休館:月曜日 一般 600円 大学 400円 高校生以下は 平常展無料	大場利夫1965 『北海道の人 面文様土器』 『北海道考古 学』第1輯	
渡島	松前町	国	重要文化財	福山城(松前 城)本丸御門	昭和16年5月8日	松前町字松城	<ul style="list-style-type: none"> ・福山城は松前城とも呼ばれ、安政元年(1854)に完成した我が国最北に位置する城です。明治8年(1875)に開拓使の命により解体され、三層天守と本丸御門が残されました。 ・その後、昭和24年(1949)には天守が焼失したことから、今ではこの本丸御門のみが安政築城の福山城唯一の遺構となっています。 ・本丸御門は、本丸御殿に通じる正門で、石垣と石垣との間に渡櫓を渡し、その下に門を設ける櫓門の形式をとっていますが、切込みハギの手法を用いた両側の石垣や切妻造りの屋根を設けるなど、櫓門としてはやや変わった形態になっています。 	松城/バス停より徒歩 10分	松前町教育委 員会 0139- 42-3060	4月10日~12 月10日まで開 館 大人200円、小 人100円	松前町1988 『松前町史通 史編第1巻下』	

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP	
渡島	松前町	国	重要文化財	龍雲院	平成4年1月21日	松前町字松城	<ul style="list-style-type: none"> 曹洞宗華遊山龍雲院は、寛永2年(1625)第7世公廣の正室華遊院(桂子)の願いによって、松前家の菩提寺法幢寺の僧良天を開山として創建されました。 南面する伽藍正面に惣門があり、総門を入ると中央に本堂があります。本堂東に庫裏、西に海上航行の安全を司る龍神を祀る龍神堂が接続しています。本堂の前方西寄りに鐘楼が建ち、境内の東南隅に土蔵が建っています。 本堂・庫裏は天保13年(1842)に、鐘楼は弘化3年(1846)に、総門は嘉永4年(1851)に建築されました。また、土蔵は弘化3年(1846)までに建てられたと推定されています。なお、龍神堂は明治6年(1873)に再建されています。 龍雲院は、江戸時代末期の伽藍を現代に伝えています。 	松城バス停より徒歩10分	松前町教育委員会 0139-42-3060 曹洞宗華遊山龍雲院 0139-42-2449		松前町1988『松前町史通史編第1巻下』		
渡島	松前町	国	重要文化財	法源寺山門	平成5年4月20日	松前町字松城	<ul style="list-style-type: none"> 曹洞宗大本山総持寺北海道別院法源寺は、北海道最古の曹洞宗寺院で、若狭の禅僧随芳が文明元年(1469)に、奥尻島に草庵を結んだのが縁起とされ、現在の寺地への建立は元和5年(1615)以降とされています。 本堂その他を箱館戦争の際の火災で失い、山門のみが古建築となっています。 山門は、彫刻等のデザインに特徴があり、その細部の文様等から17世紀中期の建築と考えられ、北海道寺社建築として現存する最古の類に属する遺構です。 全体構造は、四脚門で門扉を設けず、屋根は切妻造りの平入り、こけら葺となっています。昭和44年(1969)に、屋根を創建時のこけら葺に葺き替える修理工事が行われました。 昭和32年(1957)には北海道の有形文化財に指定され、その後、平成5年(1993)に国の重要文化財に指定されています。 	松城バス停より徒歩13分	松前町教育委員会 0139-42-3060 曹洞宗総持寺北海道別院法源寺 0139-42-2146		松前町1988『松前町史通史編第1巻下』		
渡島	松前町	国	重要文化財	銀版写真(松前勘解由と従者像)附添状	平成18年6月9日	松前町明神30松前町郷土資料館	<ul style="list-style-type: none"> 銀版写真はフランス人ルイ・ジャック・マンデ・ダゲールによって1830年代に発明された写真技術で、彼の名をとってダゲレオタイプともいいます。 この写真は直接陽画法のため1撮影で1枚の画像しか得られず、しかも左右逆像となります。 撮影者のエリファレット・ブラウン・ジュニアは嘉永7年(1854)に再来航した遣日特使ペリー配下の写真師です。本資料は彼の撮影にかかる松前勘解由と従者3人の集合写真です。 被写体である松前勘解由は、嘉永7年の撮影時、松前藩の家老で、箱館においてペリーと諸交渉にあたりました。 画像は鮮明さを欠き、右下にブラウン・ジュニアの刻銘があります。 本資料は写真技術の黎明を飾るダゲレオタイプの技術により、外国人が日本国内で日本人を撮影した現存最古の写真の1枚であり、幕末開港交渉という歴史上に重要な事象を跡付ける遺品として、対外交渉史および写真史上貴重なものです。 	松城バス停より徒歩15分	松前町教育委員会 0139-42-3060	松前町郷土資料館 9:00～16:30 大人350円 小中230円	http://www.ematsumae.com/kanko/ksisetsu/ksisetsu.htm		
渡島	知内町	国	重要文化財	北海道湯の里4遺跡土壌出土品	平成3年6月21日	知内町郷土資料館 知内町重内	<ul style="list-style-type: none"> 昭和58年(1983)知内町湯の里で、約1万4千年前の旧石器時代末期に属す墓と思われる土壌から、垂れ飾り2点、小玉3点、石器9点が発見されました。 これは、日本の葬制の起源を、縄文時代から旧石器時代にさかのぼらせるだけではなく、当時の人々の生活や文化を知るための大切な資料です。垂れ飾りと小玉は、今金町美利河1遺跡で見つかった小玉とともに日本最古のものです。ともに首飾りとして使用されたものらしく、ヒモを通すための穴が開けられています。 材質は、垂れ飾りの1点がコハク製であるほかは、ダナイトというカンラン岩の一種で作られており、大陸からもたらされた可能性が高いと考えられていますので、北海道と大陸の交渉史を考える上で、学術的にも極めて高い価値があります。 	函館バス町民センター前バス停から徒歩5分	知内町郷土資料館 0139-25-5066 知内町教育委員会 0139-25-6855	10:00～16:30 入館料 無料	知内町1986『知内町史』	http://www.d1dion.ne.jp/houzen/	
渡島	八雲町	国	重要文化財	北海道コタン温泉遺跡出土品	平成9年6月30日	八雲町末広町154番地 八雲町郷土資料館	<ul style="list-style-type: none"> 八雲町コタン温泉遺跡の出土品の内、縄文時代後期前半の土器20個、石器・石製品71個、釣針・鉋頭等の骨角牙製品類244個、貝刃等の貝製品111個の合計346個が指定されています。 この中でも、多彩な骨角牙製品類が特徴的で、鹿角を用いた釣針や鉋頭等の漁撈具、鹿角や陸獣骨を用いた針・剥離具等の工具のほか、主に鯨骨で作られた刀形骨器や青龍刀形骨器、櫛などの儀仗・装身具も多数あります。 また、ネズミザメやイトウ、サケの椎骨を素材とした平玉、鳥骨等を素材とした管玉もあります。垂飾の素材は多彩で、サメやオットセイ、キツネの歯、ウサギや海亀の骨、イノシシの犬歯を利用したものもあります。 この出土品は、縄文時代後期の漁撈活動を主体とした遺跡における、祭祀や装身を含む生活相の実態を知る上で重要です。また、装身具の素材として用いられたイノシシの犬歯や硬玉の存在も、北海道の縄文時代における本州方面との交易を示すものです。 	JR八雲駅から徒歩10分	八雲町郷土資料館 0137-63-3131	八雲町郷土資料館で公開されます(不定期)	八雲町教育委員会1992『コタン温泉遺跡』	http://www.prf.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bssbk/bunrec/sisetsu/va01/va010001/index.html	
桧山	江差町	国	重要文化財	旧中村家住宅	昭和46年12月28日	江差町字中歌町22	<ul style="list-style-type: none"> 近江(現在の滋賀県)出身の商人大橋卯兵衛が明治初期に建設したと伝えられ、明治30年代に支配人の中村米吉にこの家を譲りました。 廻船問屋の土蔵づくりの商家として、建築年代も古く規模も大きい建物です。 家屋は、当時、江差と北陸を往復していた北前船で運んできた越前石を積み上げた土台に、総ヒノキ切妻造りの大きな2階建ての母屋、さらに母屋から浜側までの文庫倉、下の倉、ハネ出しまで続く庭様式で、当時の問屋建築の代表的な造りとなっています。 昭和49年(1974)に中村家より町に寄贈され、昭和57年(1982)に全面修復し、一般公開されています。 	函館バス中歌町バス停から徒歩2分	江差町教育委員会 0139-52-1047 中村家 0139-52-1617	通年公開 大人300円 小人100円	江差町教育委員会1982『重要文化財旧中村家修復工事報告書』	http://www.hokkaido-esashi.jp	
桧山	上ノ国町	国	重要文化財	旧笹浪家住宅	平成4年1月21日	上ノ国町字上ノ国	<ul style="list-style-type: none"> 笹浪家の初代の人々は、享保年間(1716～1736)に能登国(現在の石川県)笹浪村から移り住み、主人は代々右衛門を名のっています。屋号を「ほしやまに」能登屋とし、鯨漁等で繁栄し「全道中の漁家の家」と評されました。 江戸時代の終り頃、八代目の主人は名主を勤めました。全盛の頃には、「宮の沢の川」の水が干ることがあっても、能登屋のかまどが干ることはあるまい。七つの倉にないものは馬の角ばかり。」といわれたほどでした。 現在の主屋に建てられた年代を知る手掛かりとして、安政4年(1857)に家の土台替え、翌5年に屋根葺替えを行ったことを記した「家督普請扣」があります。 当時、屋根の葺替えや土台替えは通常20～30年に一度の割合で行われるのが一般的で、主屋の材の古さからみても1800年代前半の建築であると認められており、北海道に現存する民家の中で最古の部類 	函館バス上ノ国バス停から徒歩10分	上ノ国町教育委員会 0139-55-2311	旧笹浪家住宅 0139-552400 4月第4土曜日～11月第2日 曜日公開 10:00～16:00 大人300円 子供100円	上ノ国町1962『続上ノ国村史』	http://www.town.kaminokuni.lg.jp/rekishi/default.htm	

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
桧山	上ノ国町	国	重要文化財	上国寺本堂	平成5年4月20日	上ノ国町字勝山416	<ul style="list-style-type: none"> ・浄土宗華徳山上国寺のはじまりは、古い資料によると嘉吉3年(1443)、永徳3年(1560)、寛永20年(1643)等の色々な説があり、はっきりとはしません。はじめは真言宗でしたが、江戸時代中ごろに浄土宗に改められました。 ・現在の本堂が建てられた年代を知る手掛かりとして、本堂内陣天井の支輪に「増上寺含下 宝暦八寅年 覚譽上人代」の墨書があります。これは「(この寺は)増上寺の系統の寺で、宝暦八年(1758)の寅年、覚譽上人の代に造られた」という意味です。 ・柱に使われている虹梁は、18世紀の神社や寺に一般的に用いられている絵柄であることにより、宝暦八年(1758)に建てられたと考えられます。 ・北海道における18世紀に遡る数少ないお寺の建築物として大変貴重です。 	函館/バス上ノ国/バス 停から徒歩10分	上ノ国町教育委員会 0139-55-2311 上ノ国寺 0139-55-2665	浄土宗華徳山上国寺	上ノ国町1962『続上ノ国村史』	http://www.town.kaminokuni.lg.jp/rekishij/default.htm
桧山	上ノ国町	国	重要文化財	北海道之上国勝山館出土品	平成20年7月10日	上ノ国町字北村81他	<ul style="list-style-type: none"> ・勝山館は室町時代に、上之国(今の上ノ国町や江差町周辺)を守護した蠣崎季繁(かきざきすえしげ)の娘婿となった武田信広が、1470年ごろに築いた山城で、16世紀末ころまで、蠣崎氏の政治・軍事・交易の拠点の一つとして栄えました。 ・蠣崎氏は、毛皮や海産物などの交易によって勢力をのびし、のちに豊臣秀吉や徳川家康に「夷島」(北海道の旧称)の主と認められ、「松前藩」をおこす一族です。 ・勝山館跡は、昭和52年4月に国の史跡に指定され、昭和54年から現在まで、史跡整備のための発掘調査が続けられています。 ・出土品には、陶磁器やガラス製品、木製品や漆器、石製品、金属製品、骨角製品、繊維製品などが含まれています。さまざまな品が本州から多量にもたらされているほか、陶磁器などには中国製品なども多くみられ、日本海をおとした広域的な交易が盛んだったことが知られます。 		上ノ国町教育委員会 0139-55-2311	上ノ国勝山館跡ガイダンス施設 0139-552400 4月第4土曜日～11月第2日 曜日公開 10:00～16:00 大人200円 子供100円		
桧山	今金町	国	重要文化財	北海道美利河1遺跡出土品	平成3年6月21日	今金町今金今金町教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・美利河1遺跡から出土した石器類は約11万点あり、旧石器時代の製作、使用されたもので、今からおよそ1万年数千年前のものと考えられています。 ・石器は平面的に16のかたまり(群)をなして出土し、下層からは細石刃、細石刃核、彫器などが、中層からは細石刃、細石刃核、日本最古の玉製品が、上層からは槍先形尖頭器を主とする石器群が層位的にとらえられ、石器群の移り変わりのようすがわかります。 ・このように長期にわたり、生活が営まれた背景には、石器となる材料の真岩、メノウなどの原石が手に入れやすかったことが考えられます。 	函館/バス今金役場前/バス停から徒歩10分	今金町教育委員会 0137-82-3488	今金町教育委員会 で保管	財団法人北海道埋蔵文化財センター1985『美利河1遺跡』	http://www.town.imakane.lg.jp/pirikan/top.html
後志	小樽市	国	重要文化財	旧日本郵船株式会社小樽支店	昭和44年3月12日	小樽市色内3丁目7番8号	<ul style="list-style-type: none"> ・旧日本郵船小樽支店は明治37年(1904)に着工し、明治39年(1906)に落成しました。設計者は工部大学校造家学科(東大工学部建築学科の前身)の第1期生、佐立七次郎です。 ・建物は、近世ヨーロッパ復興様式(ルネッサンス)というスタイルで建てられています。その特徴は、外壁の石柱の飾りや内部の円柱の彫刻に表れています。純石造2階建て、内部は漆喰壁に北海道産材木のワニス塗装で、落ち着いた重厚なデザインに統一されています。 ・当時、この建物全面には、専用の船入洞と輸出入倉庫があり、裏側には鉄道が走るという営業のための好施設が完備していました。支店は昭和29年(1954)に移転しましたが、昭和30年(1955)に小樽市が譲り受け、博物館として利用していました。 ・その後、昭和44年(1969)に国の重要文化財に指定されましたが、傷みがひどいため、昭和59年(1984)から3年間をかけて全面的な修理復元工事を行い、当時の雰囲気再現しました。 ・なお、日露戦争後の明治39年(1906)11月に、この建物の2階会議室で、樺太の日露国境面定会議が行われ、会議終了後隣の貴賓室で祝杯が交わされました。 	JR小樽駅から徒歩20分 中央バス錦町/バス停から徒歩3分	小樽市総合博物館 0134-33-2523	9:30～17:00 休館日:月曜日(祝日以外) と祝日の翌日(土・日以外)、 年末年始 一般 300円、 高校生・市内の70歳以上の方 150円、 中学生以下無料	北海道新聞社1995『小樽の建築探訪』	http://www.city.otaru.hokkaido.jp/sangyokowan/kanko/bunka/bunka.htm
後志	小樽市	国	重要文化財	旧手宮鉄道施設	平成13年11月14日	小樽市手宮1丁目	<ul style="list-style-type: none"> ・小樽市街地の北部にあった手宮駅は、当初から鉄道施設の基地及び海陸交通の結節点に位置づけられていました。 ・旧手宮鉄道施設は、機関車庫をはじめとし、危険品庫、貯水槽、転車台、擁壁などからなります。 ・機関車庫3号は明治18年(1885)の竣工で、我が国の現存最古の機関車庫です。 ・明治末期ごろの機関車庫1号及び擁壁は、輸送需要の増加に応じて、既存施設と周囲の地形の特質を生かして整備された鉄道駅構内の発達過程を示す遺構として、価値があります。 ・付属施設は、蒸気機関が主流であった時代の鉄道施設の構成及び機能を知る上で欠かせないものです。 ・旧手宮鉄道施設は、開拓の基盤施設として北海道で最初に建設された幌内鉄道の起点で、鉄道施設の技術的発展を考える上でも重要です。 	中央バス総合博物館/バス停下車	小樽市総合博物館 0134-33-2523	小樽市総合博物館構内4月29日～11月3日 9:30～17:00 休館日:火曜日(祝日の場合は翌日)、 一般 400円、 高校生・市内の70歳以上の方 200円、 中学生以下無料		http://www.city.otaru.hokkaido.jp/sangyokowan/kanko/bunka/bunka.htm
後志	余市町	国	重要文化財	旧下ヨイチ運上家	昭和46年12月28日	余市町入舟町10番地	<ul style="list-style-type: none"> ・運上屋は、江戸時代に松前藩によって設置されたアイヌの人々との交易場所をいいます。 ・松前藩では領地から米が取れないため、一定の場所に交易場所を開き、ここから生ずる収入を禄として知行主(家臣)に与える制度をとりました。知行主は交易を「場所請負人」と呼ばれる商人に代行させ、場所請負人は生じた利益の一部を「運上金」として藩に納めました。場所請負人による交易場所となったのが運上屋です。 ・運上屋は、公文書の取扱いや役人・通行人の宿所、難破船の救助など松前藩の優先機関のような仕事も代行し、地域の政治・経済を統括・支配する役割的な性格を次第に強めました。 ・このような運上屋は、道内に80数ヶ所あったとされていますが、現存するのはこの「旧下ヨイチ運上家」ただ一つだけです。 	中央バス余市役場前/バス停から徒歩10分 JR余市駅から徒歩30分	旧下ヨイチ運上家 0135-23-5915 余市水産博物館 0135-22-6187	9:00～16:30 大人300円、 小人100円 4施設共通入場券もありません。	余市町1980『重要文化財旧下ヨイチ運上家保存修理工事報告書』	

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
上川	旭川市	国	重要文化財	旧旭川借行社	平成1年5月19日	旭川市春光5条7丁目	<ul style="list-style-type: none"> この建物は、陸軍第七師団の将校のクラブ施設として明治35年に建築され、第七師団の会議、研修会や宴会、宿泊などに使用されました。大正3年には、陸軍省医務局長の森田太郎(森鷗外)も宿泊しています。 敗戦後、建物は荒れるにまかされていましたが、昭和43年(1968)に旭川市が元の姿に復元し、平成4年まで博物館として、平成6年からは彫刻美術館として活用されています。 建物は木造2階建、正面約40メートル、側面約20メートルある大規模な洋風建築で、かつては軍都旭川の象徴でしたが、現在は文化のまち旭川を代表する顔として親しまれています。 建物を利用した中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館は、旭川ゆかりの彫刻家中原悌二郎の作品の他、佐藤忠良、舟越保武など日本の現代彫刻を代表する作家の作品70点あまりを常設する個性派美術館です。 	旭川電気軌道バス春光園前バス停前	旭川市彫刻美術館 0166-52-0033	9:00～17:00 大人300円、大学生・高校生200円、中学生以下無料	旭川魅力発見伝	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/top/outline/kyuasa-hikawakai-kousya.html
留萌	増毛町	国	重要文化財	旧本間家住宅	平成15年12月25日	増毛町弁天町1丁目30番地	<ul style="list-style-type: none"> 本間家は、呉服業、酒造業、海運業などを営み、北海道の日本海沿岸経済の一翼を担った豪商です。 旧本間家住宅は、街路に面した店舗と、その背後の主屋を中心に、附属屋、呉服蔵及び醸造業が現存しています。 主屋は明治27年(1894)ころに着工し、明治35年(1960)までに竣工しました。 店舗は明治26年の上棟で、呉服蔵は明治26年、醸造蔵及び附属屋は明治27年の竣工と考えられます。 土蔵造や北海道で発達した木骨石造などによる防火性の高い建築群からなる商家の主要施設が良く残っています。 構法や意匠は和風の伝統様式を基調としながら、洋風の構造や装飾を取り入れており、我が国における洋風建築の波及過程をたどる上でも貴重です。 	JR増毛駅から徒歩5分	増毛町教育委員会 0164-53-2427 旧商家丸一本間家 0164-53-1511	4月24日～11月12日 10:00～17:00 休館:木曜日 一般・大学 400円 高校 300円 小中 200円		
留萌	小平町	国	重要文化財	旧花田家番屋	昭和46年12月28日 昭和52年6月27日 名称等変更	小平町大字鬼鹿字広富35番地2	<ul style="list-style-type: none"> 旧花田家番屋の建築年月日は不明ですが、漁夫寝台部分の壁に書かれていた当時のらくがきや壁の下張りの新聞紙などで、明治37年(1904)頃に建築されたものと推定されます。 この番屋は、当時鯨漁を営んでいた花田伝作という人が建てたものです。花田家は18ヶ統も鯨網を経営した人で、500人以上の漁夫(この地方ではヤン衆という)を雇い、米倉、網倉、船倉など100棟以上を持っており、経営もその当時としては珍しい蒸気機関を使用したり、漁場間の連絡のため私設の電話をつけたり、牧場を開拓したり、また漁具や網の改良などにも努めた北海道屈指の鯨漁家でした。 小平町では、昭和46年重要文化財の指定と共にこれを買収し、3年の年月と約1億9千万円の費用を投じて解体修復したもので、既に稀有となった古民家建築物鯨番屋の代表的遺構です。 毎年5月最終日曜日にはニシン番屋まつりが開催されます。 	沿岸バス第1広富バス停前、小平町市街地から車で20分。	小平町教育委員会 0164-56-2111 道の駅 おびら鯨番屋 0164-57-1411	5月1日～10月31日 9:00～17:00 大人350円、大学生・高校生200円、小中学校100円	小平町1976『小平町史』	
宗谷	枝幸町	国	重要文化財	北海道目梨泊遺跡出土品	平成12年6月27日	枝幸町三笠町1614番地1 オホーツクミュージアムえさし 0163-62-1231	<ul style="list-style-type: none"> 北海道の主にオホーツク海沿岸に広がる「オホーツク文化期」(本州では飛鳥・奈良時代)の遺跡である目梨泊遺跡から出土したまとまった資料です。 土器は粘土ひもを器面にはり付ける特徴を持ち、「ソーマン文」と呼ばれています。 青銅製の帯金具・銀製の装飾品・鉄製の蕨手刀などは、この地域の文化内容・交易の様相を知る上で貴重です。 目梨泊遺跡は、標高20mの海岸段丘に立地し、東西100mほどの範囲に広がります。オホーツク文化後期の竪穴住居4軒と、4カ所の墓域から43基の土壌墓が検出されています。 埋葬法は伸展葬と考えられる例が多く、伝統的な襖被りが多用され、蕨手刀など多くの鉄製品が副葬されていました。 帯金具や蕨手刀は、大陸系のもものと本州産のものがあり、ユーラシア大陸と本州との交易を物語る貴重な遺物です。 	枝幸町市街地から車で2分	オホーツクミュージアムえさし 0163-62-1231	オホーツクミュージアムえさし 9:00～17:00 休館:月曜日、祝日 一般 310円 高校 100円 小中 50円	枝幸町教育委員会1994『目梨泊遺跡』	http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-bsbsk/bunkashigen/parts/1475.html
網走	北見市	国	重要文化財	浜松千鳥図罫銘安親	昭和30年2月2日	—	<ul style="list-style-type: none"> この罫(つば)は、江戸時代中期の名工、土屋安親の作で、形状は丸形(縦8センチメートル、横7.9センチメートル、耳厚0.5センチメートル)、右下隅および上半にそれぞれ異なる姿体で、赤銅、素銅あるいは金摺付象嵌を施した17羽の千鳥を配しています。裏面も同様な図柄ですが、ややさびしいものです。 なお、表の茎孔の左上に「安親」の2字銘を刻んでいます。 土屋安親(1670～1744)は、通称を弥五八といい、出羽庄内(現在の山形県鶴岡市)の生まれで、はじめ庄内奈良派の佐藤彦久に師事していましたが、中年になって志をたてて江戸に出て奈良辰政の門に入り研鑽を積み、安親独自の創造力に富んだ図案技法の作風を完成した、江戸金工のすぐれた作家です。 浜松千鳥図罫は、土屋安親の作例中でも、その技量を最高に示すものの一つで、構図と彫法に特にすぐれたものがあります。 			公開していません。	小笠原信夫1982『罫(つば)』(保育社カラーブックス330)	http://www.cjtv.sapporo.jp/shimin/bunkazai/
胆振	室蘭市	国	重要文化財	土偶(北海道室蘭市輪西町出土)	昭和37年6月21日	東京国立博物館 03-5777-8600	<ul style="list-style-type: none"> 北海道室蘭市輪西町出土の中空の全身立像です。 北海道における完形の土偶の出土例は少なく、東北地方の晩期亀ヶ岡文化期に特徴的な「遮光器土偶」をまねたものと考えられますが、形や文様はかなり変容した様相がうかがえます。 両腕、両足の下面、および股間部に小孔があげられています。 	JR上野駅公園口、または鶯谷駅下車徒歩10分 東京メトロ 銀座線・日比谷線 上野駅、千代田線 根津駅下車 徒歩15分 京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩15分	東京国立博物館 03-5777-8600	東京国立博物館 9:30～17:00 休館:月曜日 一般 600円 大学 400円 高校生以下は平常展無料 北		
胆振	伊達市	国	重要文化財	旧三戸部家住宅	昭和46年12月28日	伊達市梅本町61番地の2	<ul style="list-style-type: none"> 伊達市は、仙台藩互理領伊達邦成主従が明治3年(1870)に移住し、開拓されたまちです。 旧三戸部家住宅は、明治5年(1872)の移住時につくられた住宅で、この時に移住した大工が仙台地方の建築様式(互理の下級武士の住宅)を取り入れて建てたもので、北海道の開拓農家として現存する最古のものです。 この住宅は桁行9.09メートル、梁間6.36メートル、平面積57.84平方メートルの寄棟・茅葺の建物です。外観は大壁造り、内部は土間と2室(「奥座」、「納戸」)からなる小型住宅ですが、内部構架は良材で意匠効果を上げており、また、かんなを用いず、ちょうな(手斧のことで)削り、1本のくぎも用いないで組立てるなど建築史的にも、文化的にも価値の高い建物です。 	JRバス伊達高校バス停から徒歩5分 JR伊達紋別駅から徒歩20分	伊達市教育委員会 0142-22-1515 伊達市開拓記念館 0142-23-2061	8:50～17:00 無料	北海道新聞社1971『北海道の民家』	

管内	市町村	指定	種別	名称	指定年月日	所在地	説明	主な交通機関	連絡先	公開	参考文献	HP
胆振	伊達市	国	重要文化財	北海道有珠モシリ遺跡出土品	平成16年6月8日	伊達市開拓記念館 伊達市梅本町61-2 0142-23-2661	<ul style="list-style-type: none"> ・続縄文時代の墓坑内に副葬された骨角牙貝製品の一括資料185点で、国保有のものです。 ・銚頭や釣針等の豊富な漁労用具・頭部を熊の彫刻で飾る彫形製品、小型の巻貝を素材とした装身具等、多彩な内容で構成されています。 ・これらは、続縄文時代の葬送儀礼を考える上で欠かせない資料です。 ・また、当時の骨角牙貝製品の製作技術や造形の特徴を知る上で、極めて貴重です。 	道南バス、開拓記念前バス停	伊達市開拓記念館 0142-23-2661 噴火湾文化研究所 0142-21-5050	伊達市開拓記念館 3月1日～11月30日開館 開館期間中無休 9:00～17:00 大人 260円 中～大 200円 小学生 130円	伊達市教育委員会2003『図録有珠モシリ遺跡』	http://www.fukawan.net/knkan.html
胆振	伊達市	国	重要文化財	北海道有珠モシリ遺跡出土品	平成16年6月8日	伊達市開拓記念館 伊達市梅本町61-2 0142-23-2661	<ul style="list-style-type: none"> ・内浦湾内の平低な小島に築かれた縄文時代晩期から続縄文時代の墓地遺跡からの出土品一括596点で、伊達市保有のものです。 ・副葬品として墓坑内に納められた骨角牙貝製品、土器・土製品、石器・石製品で構成されます。 ・銚頭や釣針等の豊富な漁労用具、幾何学文が彫られた槍先形製品、南海産のオオツノハを素材とした貝輪等、多彩な内容で構成されます。 ・葬送儀礼や交易を考える上で欠かせない資料です。 	道南バス、開拓記念前バス停	伊達市開拓記念館 0142-23-2661 噴火湾文化研究所 0142-21-5050	伊達市開拓記念館 3月1日～11月30日開館 開館期間中無休 9:00～17:00 大人 260円 中～大 200円 小学生 130円	伊達市教育委員会2003『図録有珠モシリ遺跡』	http://www.fukawan.net/knkan.html
胆振	伊達市	国	重要文化財	蝦夷三官寺善光寺関係資料	平成17年6月9日	伊達市有珠町124 善光寺	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府が文化元(1804)年に東蝦夷地3カ所に新建した寺院を蝦夷三官寺と通称しています。 ・善光寺はその一つとしてウス(現伊達市有珠)に建立された浄土宗の寺院で、主として噴火湾をその布教範囲としていました。 ・三官寺は蝦夷地で死亡した武士、商人、出稼ぎ人などの供養および邪宗門禁制を設立の主目的としていますが、アイヌの人々に対する仏教活動も積極的ではないがその視野にありました。 ・善光寺には三世住職弁瑞(べんずい)が作成したアイヌ語を添えた「念仏上人子引歌」の板木が遺されていることからそのことは理解されます。 ・蝦夷地における仏教史研究のみならず、アイヌ史研究においても重要な資料群です。 ・板木17点、文書・記録類22点、経典8点、絵画・器物類15点の合計62点が指定されています。 	JR有珠駅から徒歩15分 道南バス善光寺前バス停から徒歩5分	善光寺 0142-38-2077 噴火湾文化研究所 0142-21-5050	善光寺宝物館(H22秋開館の予定。建設中) ※料金等未定		http://www3.plala.or.jp/zenkouji/zenkouji/framepage2.html
日高	様似町	国	重要文化財	蝦夷三官寺等瀧院関係資料	平成17年6月9日	様似町会所町1 様似郷土館 様似町本町2丁目134-1 等瀧院	<ul style="list-style-type: none"> ・等瀧院は善光寺同様、三官寺の一つとして、サマニ(現様似町)に建立された天台宗の寺院です。 ・現在の日高支庁管内に相当する地域をほぼその布教範囲としていました。 ・明治維新以後、一時廃寺となったこともあり、残存する文化財は多くはないが「等瀧院住職記」(文化元(1804)年)など遺された文書・記録類は蝦夷地における仏教史研究のみならず、幕府の蝦夷地政策やアイヌ史においても重要な資料群です。 	JR様似駅から徒歩15分 JRバス会所町バス停から徒歩1分	様似町教育委員会 0146-36-2521 様似郷土館 0146-36-3335	10:00～16:30 入館料無料		http://www.hokkai.or.jp/samani/4kyouiku-bunka/4edu/svakai/kyodokan.htm
十勝	帯広市	国	重要文化財	紙本墨書後鳥羽天皇宸翰熊野儀紙(山路眺望暮里神楽)	昭和25年8月29日		<ul style="list-style-type: none"> ・後鳥羽上皇は24年間の院政のうち、28回も熊野へ御幸しました。その、熊野御幸の道中、宿所となる王子社などで神仏を楽しまれるために和歌の会が度々催されました。 ・和歌会に参加した人々が自分の詠んだ歌を、自分で書いて差し出した和歌儀紙を「熊野儀紙」と言います。 ・このうち、正治2年(1200)頃に後鳥羽上皇が藤代王子で詠んだ2首が「山路眺望、暮里神楽」です。 ・後鳥羽上皇の自筆で、「山路眺望」として「ふちしろや 山ちはるかに みわたせば ふもとにつづく わかのうらなみ」、「暮里神楽」として「たちまはる きねがたもとの ゆうかぜや うちなびく神の しるしなるらん」の和歌が書かれています。 			公開していません。	本宮町史 文化財編・古代中世資料編	
釧路	厚岸町	国	重要文化財	正行寺本堂	平成4年1月21日	厚岸町梅香町1丁目	<ul style="list-style-type: none"> ・浄土真宗大谷派では、北海道の開拓にあわせて布教活動を行い、明治12年(1879)に厚岸説教所を開設しました。当初湾月町の借家をあてていましたが、同14年に現在地に本堂を新築して移り、同16年に正行寺と名乗ることを許されました。 ・現在の本堂は、新潟県西頸城郡西海村大字平牛(現在の糸魚川市)の浄土真宗満長寺本堂(寛政11年(1799)建築)を購入して現在地に移築し、部分的に改造を加えたもので、文書や棟札によると明治42年(1909)に解体し、船で厚岸に輸送し同43年竣工、翌44年3月に移築落慶法要が行われています。 ・本堂は、正面18.3メートル、側面21メートルで、要所に彫刻を配し、内陣廻りの唐狭間に牡丹の透かし彫りや襷彩色を施すなど、北海道の近世寺院としては特に豪華で造りもよく、移築にあたって加えられた改造も北海道の気候風土に合わせていて、興味深いものとなっています。 ・移築の関係文書もよく残っていて、北海道の開拓に伴う建築文化の普及活動を知る上で貴重な存在であり、建造物としては道東初的重要文化財に指定されました。 	くしろバス本厚岸郵便局前バス停より徒歩3分 JR厚岸駅より約2km	正行寺 0153-52-2443 厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040	正行寺に連絡して下さい。	厚岸町1975『厚岸町史』上巻	
釧路	厚岸町	国	重要文化財	蝦夷三官寺国泰寺関係資料	平成17年6月9日	国泰寺 厚岸町湾月町1丁目	<ul style="list-style-type: none"> ・アッケシ(現厚岸町)に建立された国泰寺は、現在の十勝支庁管内から根室支庁管内に至る地域とクナシリ・エトロフ島までを布教範囲とする禅宗(鎌倉五山派)の寺院です。 ・この寺院が伝承する歴代住職の記録である『日鑑記』(文化元(1804)年～文久3(1863)年)は幕府の蝦夷地政策や異国船来船などに関して触れた資料として著名なものです。 ・また、持ち場内の各地域に住する武士や商人、出稼ぎ人などが自ら署名し寄進した大般若経(だいはんにかきょう)600巻(現存469巻)は辺境における仏教に対する意識を知る好資料です。 ・またアイヌの人々にかかわる資料も少なくなく、本資料の学術的価値は高いものです。 ・複写本は厚岸町郷土館で展示しています。 	くしろバス国泰寺前バス停より徒歩1分 JR厚岸駅より約3km	国泰寺 0153-52-3064 厚岸町教育委員会(文化財) 0153-52-4040 厚岸町郷土館 0153-52-3794	非公開です。	厚岸町1975『厚岸町史』上巻	